

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1091200020		
法人名	医療法人社団三思会		
事業所名	グループホームクララ笠懸		
所在地	群馬県みどり市笠懸町西鹿田 634-5		
自己評価作成日	平成30年7月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成30年8月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

クララ笠懸は女性の入所者が多く、それぞれが家庭でしてきたことをここでもしてくれています。お掃除やキッチンのお手伝い。洗濯物干しや洗濯物たたみなど、それぞれが分からなくなってしまうところがあっても助け合い、できることを前面に出してくれています。季節に合った行事など行い、そのたびに美味しい手料理で家族や地域の方々をもてなし、楽しい時を共有できています。ボランティアの方にも来ていただき、歌や踊りの披露をして頂き皆さんとても楽しく過ごすことができています。ホームの周りには自然がたくさんあり季節のいい時には外気浴も兼ねて散歩を楽しめます。そこで行き会う地域の方々とお話が弾み、今度ホームにも来て一緒にお茶でもという話になります。地域の方々が気兼ねなく来てお茶を一緒に飲んでいただけるホームを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所外観はモダンで、明るさを感じる建物である。理念に利用者の自立した生活支援と心身共に心地よい環境の提供を掲げ、居間兼食堂では、小人数用のテーブルを設置し気の合った利用者が会話をしながら食事をしており、各テーブルには職員が同席して食事を一緒に摂りながら、介助の必要な場合は、少しだけ手助けし見守りをしたり、利用者同士の会話にあいづちをしたりしている。旬の野菜の収穫時期には、家族から新鮮野菜が届いたり、時には筍の煮物を沢山いただき利用者と職員で食したりしている。おやつは、例えば、市販のアメリカンドックをヒントに、ウィンナーソーセージにして衣をつけて揚げるなどその過程をたのしみながら、美味しい匂いを部屋中にたてて行うこともあり、食への意識を高めている。幅広のウッドデッキが全居室を取り囲むように設置し、居室から自由に出入り開放的である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール中央の壁に理念が貼ってあり、いつでも目にすることができるようにしている。理念を念頭に置きその日の業務に繋げている	月1回の会議で、理念に基づく支援を再確認している。利用者のできること・工夫すればできること等を見いだす自立に向けた支援をしている。どのような場面にも、笑顔と気づき、気配りに配慮し、実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元の神社のお祭りや区の納涼祭や春のお花見に出かけて行っている。今年は区長さんからお誘い頂き、地域のイベントにも参加させて頂くことができました	これまでも地域の神社の祭りや納涼祭に出かけているが、今年は、区長と民生委員からの誘いをうけて参加している。区費を納め自治会に加入しているが、認識不足であったこともあり、現在は回覧板の活用や普段の交流にやや乏しい状況である。	自治会に加入していることを職員も意識して、地域での事業所の役割や、地域の人々との交流が活発になることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族や親せきの方より認知症の対応についての相談を受けたので、ホームの利用者様の対応をお話させて頂きました。また、地域にホーム便りの回覧をお願いし、行事や日常生活の様子などを伝えて、ご理解ご支援を頂くようにした		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族にホームの様子を伝えるため、3か月に1回のクララ笠懸たよりを発行している。地域の方々にも見て頂いたらとのご意見をいただいたので、運営推進会議で区長さんをお願いし、地域の回覧板で回してみte頂くようにした	年6回、運営推進会議は、委員出席のもとに開催している。事業所より現状報告を行い、意見交換と、時には「認知症」についての理解を深めるための内容で開催している。そのつど、議事録は全家族へ送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	2か月に1回、市担当者にホームへ来所して頂き、運営推進会議に参加してもらっている。会議の案内など直接お持ちして取り組み内容を伝えながら協力関係を築いている	運営推進会議の案内等も、市担当課へ直接届けている。市担当者より他市からの入居希望者の相談・紹介もあり、連携を取りながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束禁止の行為は法人内の勉強会や日々の介護の中で指導し理解している。拘束するのではなく利用者との関わりを持つ事が必要と思い取り組んでいる	法人主催で「身体拘束について」の研修会の開催や、サービス向上委員会を立上げ「拘束について」の勉強会を行っている。勉強会で得た知識は、各職場で職員へ伝達し、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会や普段の利用者との関わりの中で言葉遣いや態度には特に注意を払いながら職員同士、不適切な行為に対してはその都度話し合っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日々の必要性を関係者と話し合い、活用できるように支援している。電話や手紙のやり取り等で支援をし活用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約についての重要事項説明書を丁寧に説明し理解を得ている。不安や問題点はスタッフの方から声を掛けて解決できるようにしている。重要事項説明書の改定についてはその都度文章で家族に説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見や要望を聞く。行事などの時には利用者に意見や要望を聞いている	家族の来所時に、要望や意見を職員へ話して欲しい旨を伝えている。外出や外泊の要望に、職員が積極的に外出支援を行うなどの機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新年度に自己目標を立てている。自己目標について面接を年に3回行い、意見や提案を聞いていく機会にしている。	職員の動機づけと意見の表出を目的に、年度初め、各職員は自己目標を管理者に提出している。管理者は、職員の自己目標を参考に年3回面談を行い、職員からの意見や提案を利用者支援に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休みを、月に2回入れて休んでいる。夜勤や公休は平等に入れて給与に差が出ないように職場環境・条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2か月に1度法人内の勉強会に参加している。法人外での研修にも参加を呼び掛けている。研修後は研修報告書を提出してもらっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議・委員会・法人内の勉強会・親睦会など交流の場を設けて質の向上に努めている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	要望を言えない方もいるので、本人の観察と様子を見ながら声掛けをし、関係づくりに努めている。入所後間もない方は特にかわりを多く持ち、安心できるようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家庭での生活や今までの生活のあり方を聞いて、現在困っていることや不安なことを聞き入れ、関係づくりに努めている。入所後間もない方の家族にはこちらから様子をまめに報告させていただいている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人との会話や行動を十分観察し、今何を望んでいるのかを見極め、対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意見や意向を引き出せるよう会話に工夫しながら関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家や家族のことが心配で電話をしたい希望があれば、できる限り電話で家族と話ができるようにし、家族との絆が絶たれないようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟や親せきの方が来所した時には、写真などにとって部屋に飾っておくような取り組みもしている。買い物に馴染みの店に行くこともしている	以前からのかかりつけの美容院へ行くこと・利用者の友人が定期的に訪問することや、外食(蕎麦屋)の希望がある場合は家族(キーパーソン)の了解を得て個別に対応している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の会話に入れない利用者は職員が会話のできる席に案内して職員も加わり利用者同士がかかわれるようにしている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームで看取り退所された家族の方に行事の案内を行い遊びに来ていただいた		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活状況を把握するために、十分なアセスメントを家族を巻き込んで行い、本人にとってのニーズが導き出せるような取り組みをチームケアで行っている	これまでの暮らしや、これからの希望を、入居時に家族・本人より聴取している。把握した内容は独自の記録ノートに書き、職員で共有し日々の支援に活かしている。また、利用者の些細な言動も、支援に取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅での生活や暮らしに少しでも近い環境を心掛け、サービス利用の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ラジオ体操・合唱を毎日の日課で行っている。洗濯量やキッチンのお手伝いはできる方にして頂いている。他歌謡曲を聞いてお過ごしいただいている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとのカンファレンスを行い、6か月ごとにモニタリング・計画の見直しを行い本人の状況の変化を把握しながら、多職種との連携をし介護計画に反映させている。家族の意向も確認している。	3ヶ月に1回を目安にサービス担当者のもとで、カンファレンスが行われている。サービス内容の適切性や、利用者の心身状況の変化に応じ、見直しをしている。突発的な事故の場合は、その都度、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアを個別に記録に記入している。職員間でその日の申し送りを徹底し情報を共有し実践や介護計画のに直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズを導き出すことができたなら、職員間で話し合い、いろいろな工夫をし、サービスに取り入れていく		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺は自然が多く散歩に適している。外に出る機会も多く自然を感じることが大いにできる。ウッドデッキも広くお茶など屋外で楽しむことができる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度かかりつけ医が往診にしてく入れている。家族の希望あれば往診時の立会いもして頂いている。医師より家族にも情報を伝えてくれるので適切な医療が受けられている	これまでのかかりつけ医の受診の有無は、入居時に本人・家族に確認している。定期（泌尿器科）受診は家族が付添い、診療結果は家族より管理者へ報告している。家族の都合により職員が受診支援をした場合は、家族へ診療結果を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1で訪問看護師が健康チェックに来ている。日常生活の変化についてお知らせしたり、気になることを相談している。また電話で相談し、適切な受診ができるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人が安心して治療が受けられるように細かな情報を医療機関に伝えている。入院中は病院のMSWとの連携を密に取り情報交換をしながら早期退院を目指している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に週末期医療についての説明をし、理解を得ている。体調に変化がみられた時には必ずご家族に説明し状態の報告をしている。	利用者、家族の希望で、終末期ケア、看取りをしている。医師、看護師、職員の共有・協力の下で、実践している。利用者の容態変化に応じ、家族に説明している。また、家族の希望があれば、利用者の居室で共に時間（宿泊）を過ごすことができる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の勉強会で毎年行っている消防署の出前講座に参加している。グループ内で順番で行う炊き出し訓練にも毎年参加している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行っている。日中・夜間想定で行い避難方法の再確認をしている。	年2回、昼間と夜間を想定し避難訓練を実践している。避難後の集合場所は、近隣会社の協力で近隣会社の駐車場が利用できるが、避難誘導における人的協力体制に課題がある。3日間程の食料備蓄をしている。	日常的に地域の人々との関係性を築いたり、マニュアルの見直しとともに職員の役割を明確したりして、責任ある行動ができる体制づくりを期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊重し、不適切な言葉や行動に気を付けている	利用者との関わりは、名字をつかうことや、一人ひとりに合った好む言葉かけをしている。また、入居もない利用者に寄り添い、見守りの支援を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを大切にし、1人1人が要望を表出できるような信頼関係を築いている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々笑顔でお過ごしいただけるよう、1人1人のペースに合わせて生活支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師に来てもらい、それぞれ自分の好きにカットやカラー・パーマをかけている。季節感のある衣服を着て頂くように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理のない程度に片づけをして頂いている。好き嫌いを把握し、嫌いな物であれば代替えを用意させていただいている	食物アレルギーや好物などを、入居時に家族・本人より聴取し、食事に活かしている。食材は業者から調達したものに、旬の野菜を追加している。利用者自らで食器洗い・拭き、テーブルを拭くことを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の食事量を記録して体調管理をしている。利用者の状態や体調に合わせてとろみやミキサー食を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っていただく。できない方はケアに工夫して本人に応じた口腔ケアを行うことで清潔保持している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	切迫性・腹圧性・機能性といった障害があるため、1人1人の身体状況を把握して声掛けや支援を行っている	尿意のある利用者の動作を見てトイレへの声かけや、その日の心身状態に応じトイレ誘導をしている。尿意のない利用者の場合は、排泄記録を参考にして、トイレへ誘導・トイレでの排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	習慣的な便秘になりがちな為(ぜん動運動の低下や薬物の副作用)適度な運動や十分な水分・繊維質な食品をとることによってできるだけ自然排便を促すようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や希望によって入浴を楽しんでいただいている。体調面で入浴が困難な時には足浴や清拭・更衣等で清潔が保てるようにしている	個別対応での入浴(週2回)と、本人の体調に応じて1回は清拭を行っている。手足に拘縮のある場合には、浴室へ移動しシャワー浴をしている。季節を感じる入浴剤(ゆず等)を選び、入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の様子や体調を考え安心して休息ができるように声掛けを行っている。不安を訴える方については傾聴し安心した入眠ができるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は大切な支援なので間違いがないように支援していく。特に薬の変更時にはスタッフ同士の申し送りにて症状の変化の確認を行っていく		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の有する能力によって役割を持ってもらい、洗濯たたみや血洗い、野菜の皮むきなどして頂いている。食事面では旬の食材を使った料理で楽しんで頂くようにしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のイベントに参加するなど、外に出て楽しんでもらえるように支援しています。	日常的には、事業所周辺を散歩することや、近くの農村広場・小菊の里へ出かけている。年1回、法人の企画で、家族・利用者一緒の合同バス旅行を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方からお小遣いを預かっている。ホームにヤクルト販売が来たり、歯磨き粉などを購入したり、また外食費に充てたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話して安心できる方もいるので、ご家族に了承を得ている方は電話ができるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1日の大半を共同で過ごす場所なので、穏やかにお過ごしいただくことができるように、環境を整えている。季節感のある装飾品を飾ったり、共同制作したものを楽しんでもらっている	廊下は、車椅子が余裕ですれ違いできる広さがある。食堂・居間には、4～6人が利用できるテーブルと椅子が設置され、気の合った同士が話しながら食事をしている。各居室から、木製のベランダへ出られ開放的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方々との会話が楽しめるような、空間づくりをしている。ソファやテレビの位置など。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとり思い思いに過ごせるような家具などの配置をしている。また、思い出の品を飾っておくなどもしている	居室の壁紙を、茶系に統一している。ベッド・中型タンスは既存の物であるが、入居に向け、職員が家庭訪問した際に、本人の好みのもの等を持参できることを伝えている。本人の希望と安全を考慮し、床に布団を敷き休む方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かしながらかみ守りや自立支援を行っています		